

製品名: RSK1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80594**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	/

抗原情報

遺伝子名	RSK1
別名	RSK; HU-1; RSK1; MAPKAPK1A; RPS6KA1
遺伝子 ID	6195.0
SwissProt ID	Q15418
免疫原	大腸菌で発現したヒト RSK1 の精製された組み換え断片。

背景

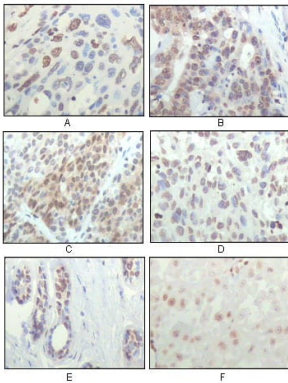
Rsk1 は、Rsk1、Rsk2、および Rsk3 を含む 90kDa リボソームタンパク質 S6 キナーゼファミリーのメンバーです。これらは、細胞外シグナル調節タンパク質キナーゼ Erk1 および Erk2 を含む、分裂促進刺激にตอบสนองして活性化される、広く発現しているセリン/スレオ

ニントタンパク質キナーゼです。Rsk1 は、in vitro および in vivo で MAPK によってリン酸化を介して活性化されます。活性型 Rsk は、核に移行し、c-Fos および CREB をリン酸化することにより、転写制御において主要な役割を果たすと考えられます。RSK タンパク質は、疎水性モチーフを含むリンカー領域によって分離された、C 末端キナーゼドメインと N 末端キナーゼドメインの 2 つの独立したキナーゼドメインを有します。RSK は、成長因子、ホルポールエステル、cAMP、熱ショック、放射線照射など、多くの刺激によって活性化されます。

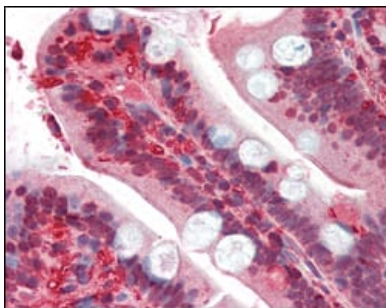
研究分野

mTOR シグナル伝達経路

画像データ



パラフィン包埋ヒト食道扁平上皮癌 (A)、結腸腺癌 (B)、肝癌 (C)、皮膚癌 (D)、乳管腫瘍 (E)、および脳腫瘍 (F) の免疫組織化学分析。RSK1 マウス mAb と DAB 染色を使用して核局在を示しています。



RSK1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト小腸組織の免疫組織化学分析。